

## 対話型模擬授業検討会を通じた省察の深め方・対話の仕方のトレーニング

総合教育実践プログラムの「カリキュラムデザイン・授業研究Ⅰ～Ⅴ」では、主に学卒院生らが、「**対話型模擬授業検討会**」を通して、**実践から省察を深めるやり方**と**そのための対話の仕方**について学んでいる。これは、従来多く見られた、「評価」や「助言」の関係性に基づく検討会ではなく、コルトハーヘンのALACTモデルの「9つの問い」を下敷きに、**授業者と学習者**がそれぞれの立場から**do / think / feel / want**を出し合って**対話**し、双方に新たな気づきをもたらす検討会を行うものである。



2015年度頃から続けられてきたこの取組は、**授業検討会や校内研究のあり方を変革するものとして他大学や学校現場等にも波及し、連携プロジェクトが多数実施されてきた。**

- (左) 大阪教育大学教職大学院メンバーとの対話検・模擬検交流会 (2026年3月9日・10日)
- (右) 三重大学教職大学院と2024年度に行った共同プロジェクトの成果物「対話検 meets インプロ」

これらの取組については、渡辺・岩瀬 (2017)、渡辺・矢嶋 (2023) などの**関連論文**が公刊されてきたほか、**朝日新聞記事** (2021年2月24日) やコルトハーヘンの『**パワー・オブ・リフレクション**』 (邦訳版は2026年刊行) でも取り上げられるなど、幅広い注目を集めている。